

行政視察報告

視察日時	令和3年11月15日（月） 15時00分～16時30分
視察場所	長野県駒ヶ根市（オンラインでの説明、質疑応答）
視察項目	おれんじネット事業・住民主体の介護予防・生活支援の取組
視 察 者	民生常任委員会委員7名 当局職員5名 事務局職員1名
視察概要	<p>新型コロナ感染拡大対策のため、長野県駒ヶ根市と市庁舎4階の委員会室をオンラインで結び、管外行政視察を実施しました。</p> <p>特徴的な内容として、次のような説明がありました。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 駒ヶ根市の人口は約3万人で、高齢化率は32%弱であること。 ② おれんじネットの事業を進める上で一番大切なことは、「一緒に事業を進める仲間づくり」であること。 ③ 認知症サポーターを具体的な活動につなぐために、認知症ステップアップ講座を開催し、受講した方を「おれんじネットパートナー」として地域包括支援センターにボランティア登録する仕組みがあること。 ④ 駒ヶ根市では、住民主体の「通いの場」の充実を図っていて、10月時点で市内158か所あること。 ⑤ 担い手や利用者として参加している方が約1,500人いて、65歳以上の人口の概ね1割以上の方がこの通いの場に関わっていること。 ⑥ 介護保険制度の一つである生活支援体制整備事業については、最初のコーディネーターとなる第1層生活支援コーディネーターとして、介護事業所を運営して、かつ、区長も経験されている方が着任していること。 ⑦ 平成29年3月に16行政区全てで生活支援コーディネーターが配置され、10月には「支え合い推進会議」という協議体が設置されていること。 ⑧ コーディネーターは各行政区の住民から選出していて、地域の仕組みや人をよく知っているコーディネーターだからこそ、住民目線による地域づくりを力強く前進させることができたこと。 ⑨ サポーター養成講座等を通じて、認知症は地域で支え合って家族だけで抱えない、認知症は歳をとれば誰でもなるということをお話ししていること。
本市に生かせる視点	<p>駒ヶ根市では住民主体の通いの場の充実が図られていて、その取組みを支えているのがコーディネーターや「支え合い推進会議」という名称の協議体になっています。また、「市が市民とともに取り組む」という姿勢が強く感じられました。</p> <p>本市の通いの場は、県が掲げる目標数としては人口規模からは100か所とされていますが、現在は31か所に留まっています。駒ヶ根市のまさに官民協働での取組みが大いに参考になりました。</p>